

令和5年度静岡県緑化推進有識者会議 委員意見（要約版）

日 時：令和5年8月30日（水）
場 所：静岡県東部総合庁舎

1 出席委員

所 属 職 名	氏 名	緑化推進 有識者会議
一般社団法人公園管理運営士会 専務理事・事務局長	飯塚 克身	委 員
工学院大学 建築学部教授	西森 陸雄	委 員
静岡大学 地域創造学環教授	水谷 洋一	座 長
やざわ花育種株式会社 代表取締役 葉乃畑合同会社 代表	矢澤 秀成	委 員
前静岡県教育委員会委員	渡邊 靖乃	委 員

（五十音順）

2 発言内容

●全般的なことについて

発言内容	発言者
各取り組みでは、実施の段階で委託している団体がいるはずである。主体となってくれているボランティア団体はパートナーであるため、事業個票には名前を記入すべきだと考える。	水谷委員
様々な取り組みの成果をしっかりと表に出して欲しい。例えば、成果を出している事例の一つに、万田発酵株式会社が整備・運営する HAKKO パーク（広島県）がある。このように、民間企業が協力をして緑化に取り組んでいる事例は全国にも数多くある。もし静岡県においても自慢できる例があればアピールすべきである。企業と連携しながら、企業の個性が出る庭づくりを実践するのも裾野を広げることにつながるのではないかと考える。	飯塚委員

●取組番号1 緑化資材の提供（静岡県グリーンバンク）

発言内容	発言者
緑化ボランティア団体に向けて種を配布しているとあるが、近年は酷暑により、従来は秋まで楽しめたマリーゴールドなどの花が夏を越すことができなくなっている。このため、暑さに強い種への変更を検討すべきだと考える。	矢澤委員
ボランティア団体のリクエストにより配布する種子を決めているのであれば、温暖化による花の変化をガイダンスなどで周知すべきである。	水谷委員

●取組番号1 緑化資材の提供（静岡県グリーンバンク）

●取組番号9 芝生の普及支援、管理支援（静岡県グリーンバンク）

発言内容	発言者
花壇や芝生の維持について、従来は先生が空いている時間に水やりをしてくれていたが、学校の働き方改革により植物の世話をする余裕がなくなってしまった。このような問題を踏まえ、学校とボランティア団体間のマッチングにも力を入れて欲しい。また、多様な生物に触れることができるイングリッシュガーデンのような、子どもにとって理科的学びにつながるような学校花壇を導入すべきだと考える。	渡邊委員

●取組番号3 花育活動（寄せ植え）（静岡県グリーンバンク）

●取組番号4 里山学習施設の管理運営及びプログラムの提供（環境ふれあい課）

発言内容	発言者
eラーニングは、リアルタイム形式またはオンデマンド形式のどちらをとっているのか。取組自体は素晴らしいものだと思うので、さらにコンテンツを充実させて欲しい。また、里山学習に関してもeラーニングを導入できるのではないかと。まずはアーカイブ化から検討してほしい。	渡邊委員

●取組番号 4 里山学習施設の管理運営及びプログラムの提供（環境ふれあい課）

●取組番号 6 静岡棚田・里地くらぶ（農地保全課）

発言内容	発言者
現在の深刻な問題として、担い手の不足が挙げられる。1、2年後ではなく数十年後まで活動を存続させるには、理念を継承する基盤作りが必要になる。また、管理や維持には関わっている人の手があることまで子どもたちに伝えるべきである。	飯塚委員

●取組番号 6 しずおか棚田・里地くらぶ（農地保全課）

発言内容	発言者
「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」とは具体的に何をするのか。また、参加人数はどのくらいいるのか。達成率が89%とのことだが、その目標値で実際に棚田は維持・管理ができるのか、また次に繋げられるのかについて再検討すべきだと考える。	西森委員

●取組番号 7 ふじのくに色彩・デザイン指針（景観まちづくり課）

発言内容	発言者
全体的にざっくりとしているため、具体例を示して欲しい。参考資料である写真に関しても、イメージがしやすいよう具体的なものに差し替えるべきだと考える。（西森委員）	西森委員

●取組番号 8-2 安全で美しいいえなみ整備（住まいづくり課）

発言内容	発言者
達成率が27.8%となっているが、今ある生け垣の風景の維持でも大変なのが現状である。そのような現在の街並みも含めて補助を行うことで、達成率をあげることができるのではないかと考える。	西森委員

●取組番号 9 芝生地の普及支援、管理支援（静岡県グリーンバンク）

発言内容	発言者
芝生地の普及には、芝生が二酸化炭素の削減にどれほど貢献しているかという芝生自体の効果について主張することが大切である。また、単一の芝生地だけではなく、昭和記念公園のように複数の種で構成された芝生地の導入も検討すべきである。英ケンブリッジ大学での研究結果では、複数種で構成された芝生地において生態系の多様化が見られたという結果が報告されている。このような複数種による芝生の効果を理解した上で芝生の促進に取り組むべきだと考える。	飯塚委員

●取組番号 11 用途に応じた芝生の開発（芝草研究所）

発言内容	発言者
ロボット芝刈機に関して、PR として見学会を開催しているとあるが、その後の過程はレンタルによる貸し出しか、または個人による買取か、どのようになっているのか。ロボット芝刈機はレンタルによる貸し出しが好ましいと考える。また、近年ゴルフ場によるエアレーション器具の貸し出しが減少してきているため、エアレーション器具も貸し出すことで、人々のニーズに応えることができると思う。	矢澤委員

●取組番号 16 県立森林公園アカマツ林再生（環境ふれあい課）

発言内容	発言者
アカマツ林の再生活動とは、現存するアカマツの再生であるのか、それとも人工林なのか。外から苗をもってきて植えると人工林になってしまうため、もともとあるマツの実生を育てることが、本当の意味での再生につながると思う。	矢澤委員

●取組番号 19 さくらの保護育成（静岡県さくらの会）

発言内容	発言者
5、10 年後には維持が難しくなっている事例が多く、非常に難しいプロジェクトだと考えている。このような事業はニュータウンでも失敗例が多い。財力や維持費を誰がもつのかについて検討してほしい。	飯塚委員

●取組番号 25 森づくり県民大作戦（環境ふれあい課）

発言内容	発言者
静岡県はエリアごとに特徴があるが、地域によって計画や戦略のビジョンはあるのか。また、メインとなっているのは市町と団体のどちらなのか。	西森委員

●取組番号 29 緑化コーディネーターの育成・活用（静岡県グリーンバンク）

発言内容	発言者
講座は新しい技術を常に発信することに力を入れるべきである。技術は日々更新されるため、アップデートした情報を講座で伝えることで、受講者側のモチベーションにつながるのではないかと考える。	矢澤委員
SNS 発信について、ボランティア団体に向けて SNS の研修を行う旨の回答があったが、情報発信に特化したチームを組むべきだと考える。ボランティア団体の方はあくまで花壇の整備が優先順位が一番になるため、情報発信を優先できる、カメラや映像に長けた専門学校とコラボレーションし、プロジェクト化すれば良いのではないかと考える。	水谷委員

●その他

発言内容	発言者
放置竹林に対する取組は、県の守備範囲なのか。もし取り組んでいるのであれば、県民に伝わる形で活動を周知すべきだと考える。	渡邊委員